

ステキな  がたり

暮らしを豊かにする、
モノづくりのまち東大阪。

ステキな モノづくりのまち

モノづくり企業が集まって
多種多様なモノづくりであふれる、
全国屈指の場所なんです。

東大阪市はモノづくりのまちとして知られています。
製造業の事業所数や密度は全国でも上位であり、
従業員数20人未満の企業が約9割を占めている中小企業のまちです。
小さな町工場から生み出される製品は、確かな技術で全国や世界で活躍しています。



東大阪市のモノづくりは地域の宝物です。

東大阪市のモノづくりは全国的に有名です。
本市には、小規模ながら、チャレンジ精神が旺盛で、情熱を持ったモノづくり企業
が集積しております。このような企業同士が連携することで、歯ブラシから人工衛星
までなんでもつくれる力となり、世の中の暮らしを支えております。
本冊子を通じて、モノづくりの魅力や社会的役割を知っていただき、本市の誇りで
ある東大阪のモノづくりを理解していただけることを願っております。

東大阪市長 野田 義和

東大阪市

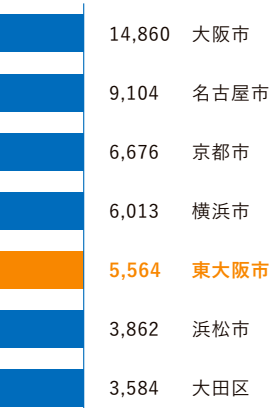
面積:61.78km²
人口:485,974人
世帯数:237,970世帯
(令和5年12月1日現在)

全国
第5位
事業所数

全国1位の製造業の 事業所密度だから、 工場は身近な存在。

市内の製造業の事業所密度は1km²あたり107.6
で、全国1位を誇っています。東大阪市には、モノ
づくりの環境がとても身近にあります。

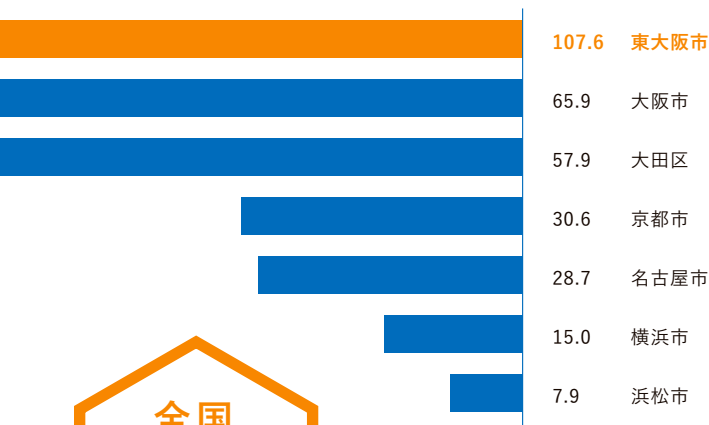
全国主要都市別事業所密度
(R3経済センサス活動調査による事業所数4,000以上の都市で比較)
可住地面積1km²あたりの事業所数
(「統計でみる市区町村のすがた2023」による可住地面積を用いて算出)



製造業の数が 全国で5番目に 多いんです。

市内の製造業の事業所数は5,564で、全国5位となっています。政令指定都市を除くと、全国1位という事業所数は、東大阪市が日本屈指のモノづくりのまちであることを証明しています。

全国主要都市別事業所数(R3経済センサス活動調査)

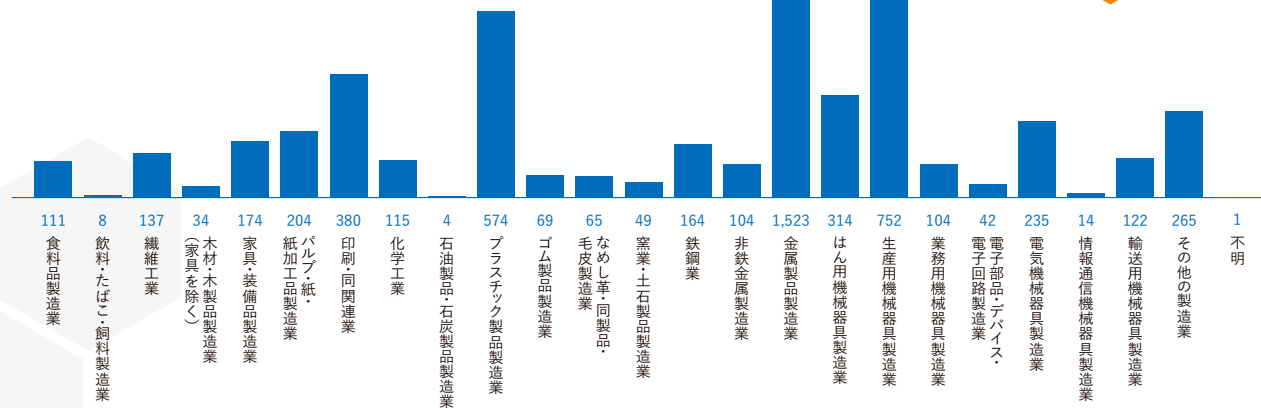


全国
第1位
事業所密度

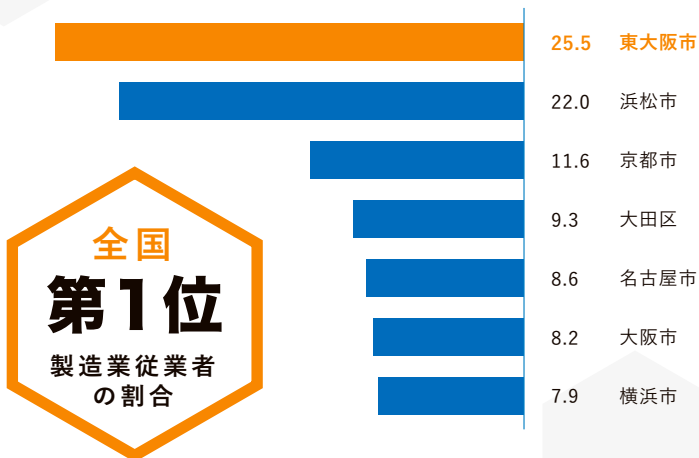
多種多様な企業が集まり、 なんでもつくれる技術がある！

歯ブラシや金属製品、電子機器、環境・通信技術関連の最新技術、多種多様な技術を持った企業が集まっていることで、「なんでもつくれる」「なんでもそろう」と評価を得ています。

業種別事業所数(R3経済センサス活動調査)



事業所数
5,564



全国
第1位
製造業従業者
の割合

4人に1人は製造業で 働いています。

全産業の従業者のうち、製造業の従業者が占める割合は25.5%で、これは全国で1位です。事業所の数が多いだけでなく、そこで働いている人が多いことがわかります。製造業に携わる人たちが、東大阪市を支えています。

全産業の従業者のうち製造業の従業者が占める割合
(R3経済センサス活動調査による事業所数4,000以上の都市で比較)



なんでもつくるモノ

つくれないものはないと言われるほどバラエティに富んだ多様な

モノがたり

1

産業の3つの源流

東大阪市は古くから鋳物工業、伸線工業、木綿産業の盛んな地域でした。それらの産業から派生した多種多様な業種の歴史を追ってみましょう。

江戸時代前

江戸時代

明治時代

モノづくりに
関わるできごと

鋳物工業

河内丹南(南河内)地方にはかなり古くから鋳物師(いもじ)がいて鋳造していたと考えられ、河内鋳物が我が国の鋳物のルーツであるとされている。

河内丹南の鋳物技術が東大阪市の布施に伝わる。

TOPICS

弥生時代からモノづくり!?

遺跡の宝庫でもある東大阪市。弥生時代の遺跡からは、鋳型(いがた)をはじめ銅鐸や銅剣、腕輪が発見され、既に弥生時代から青銅器が制作されていたことがわかります。東大阪のモノづくり気質はこんなところから育まれてきたのかもしれない。



▲鬼虎川(きとら)がわ遺跡出土の銅鐸鋳型

鉄瓶、鍋釜などの生産が盛んになる。

伸線工業

生駒山麓の急流を利用した水車工業が誕生し、色粉や薬種粉末の製造が発達する。

東大阪の商人が、京都でカンザシに使う銅の線材を依頼され、人力によって伸線を始める。

これまで人力により行われていた伸線が、初めて水車を動力として行われる。以後、水車による伸線工場が集中して立地するようになり、枚岡地区で伸線工業が盛んになる。

安くて用途が広い鉄線が普及し、釘の国産化がなされるようになり、針金、金網、縫い針など鉄線の用途が次々に増える。

木綿産業

1704年の大和川の付替え工事で誕生した広大な埋立地が綿作農業に利用される。また、鴻池新田の開発などで木綿の作付面積が増加。東大阪市が河内木綿の一大生産地となる。

地理的に大阪と近いこともあり、広く河内木綿が流通する。

明治時代に入り、近代的な紡績機械が導入されたが、国産の綿では良質の綿糸をつくることができず、次第に外国の綿花の輸入が増えていく。

明治29年に輸入綿花の関税が撤廃され、わが国の綿作農業は急速に衰えを見せる。綿作の仕事を手を失った人達は、転職、転業を余儀なくされる。

木綿産業の分解

河内木綿

内職とし

大阪市内



づくり気質のステキなルーツ

業種と業態。現代の東大阪のモノづくりのはじまりは、江戸時代から築きあげられてきました。

大正時代

【大正3年】
大阪電気軌道(近鉄奈良線)が開通する。

足代、新家一帯で鉄瓶の生産が増え、大正中期には南部鉄瓶を量的にしのぎ、全国的にも有名になる。

大阪電気軌道(近鉄奈良線)が開通し、それを契機として枚岡地区に電力が供給されるようになる。一部の工場に電力機が導入され、生産性は一段と向上する。

の機織を伝承する産業として撚糸業やタオル業へ転業する。

て歯ブラシの植毛やボタンの穴あけ加工の仕事始める。

の工場へ働きに出て技術を修得後、帰村し金網や理器(バリカン)製造始める。

昭和時代

【昭和11年】
大阪府道・大阪枚岡線(産業道路)が開通する。

戦時経済体制のもとで、布施の鋳物が、鉄瓶、鍋釜などの家庭用品から、機械関連の鋳物部品生産へと転換され、地域の主要産業となる。また、鋳物の後工程に必要な加工業の発達も促す。

大阪府道・大阪枚岡線(産業道路)が開通。鉄線の生産地である枚岡地区と市場である大阪との物流が発達する。枚岡の伸線業は増加し、昭和10年には100社近くとなる。

【高度成長期(昭和30~48年)】
大阪市内からの工場移転や、小規模企業の独立により、中小企業が大幅に増加。

戦後、布施地区でミシン工業が急速に発展し、復興の足がかりとなる。高度成長期をむかえ、電気機器、産業機械、造船、自動車なども成長し、鋳物業界も最盛期をむかえる。

昭和40年代初め、東大阪の伸線業は140社を数え、生産高では東大阪市総工業生産の10%を占める。全国シェアにおいても40%に達し、東大阪市最大の地場産業となる。



【昭和58年】
東大阪市の工場数が10,000を超えてピークになる。

需要構造の変化や公害問題などから、鋳物工場が減少する。しかし、美術工芸品として高く評価される作品が生まれるなど、河内鋳物の技術が伝承される。

人手不足や公害問題、海外企業との競争により、伸線業は減少傾向になる。厳しい環境下であったが、海底通信用ケーブルの保護材や、特殊な釘などの分野を開拓する企業が現れる。



河内鋳物の流れをくむ東大阪の鋳物工業は、今日の東大阪市の産業が発達する上で機械工業や金属工業の発展を促し、その基礎を築いた。

伸線工業は単に針金としての需要だけではなく、釘、金網、ボルト、ナットなど裾野の広い産業であり、東大阪地域における線材製品の加工産業の発達を促した。

木綿産業が衰退した結果、歯ブラシやボタン工業に従事する人や新しい技術を修得する人が現れ、さまざまな産業の発展につながった。

参考文献: 湖中 齋 著「東大阪の中小企業“中小企業の街”から発信」

モノがたり

2

いつもそばにいる ステキなくらしと モノづくり

朝起きてから、夜眠るまで。
私たちの生活のまわりでは、
ありとあらゆる東大阪のモノが、
暮らしを支えています。

TOPICS

逸品たちを身近に感じる

東大阪市役所本庁舎の1階ロビーにおいて東大阪ブランド認定製品を展示しています。



ペットボトル
リサイクルシステム

ドローンアシスト装置



工具



グラウンド用ライン引き



釣り道具



時計



シューズ



Tシャツ



フライヤー



エコロジー



プラスチックの代わりに天然木と天然毛を使用した自然に還る歯ブラシ



2025年大阪・関西万博「空飛ぶクルマ」暫定ポートに採用された芝生保護プレート



東大阪ブランド

モノづくりのまちから生まれた選りすぐり品



モノづくりのまち東大阪を拠点とする企業が試行錯誤を繰り返し、熱い想いを込めて生み出した特徴あるオリジナル製品のみ認められた「東大阪を代表する地域ブランド品」です。

安全安心



鉄道を含む公共インフラや各種工作機械・ロボット等に使われる絶対にゆるまないナット



新大阪駅等全国の主要駅や空港の天井パネル

子育て



ふたごや年子など、年の近い2人の子どもと一緒に乗せられる自転車



親子で楽しみながら組み立てられるダンボール製キッズテント

スポーツ



プロスポーツ選手が愛用するゴーグル



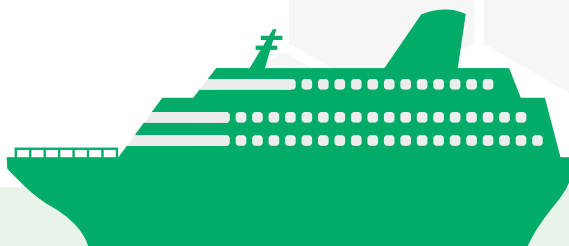
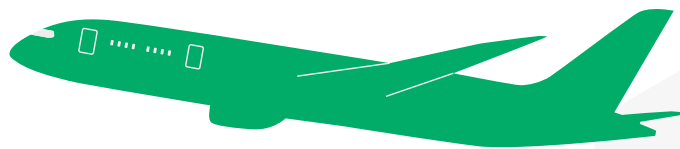
デザイン性と安全性を兼ね備えた自動車用ホイール

モノがたり

3

ステキな技術で 社会を支える 縁の下のモノづくり

当たり前に使っている乗り物や
日本のシンボルともいえる建造物。
社会の基盤となる製品にも、
東大阪の技術が生かされています。



高い技術で絶対の信頼を！ あらゆるモノを 生み出す企業集積地

東大阪市には、金属製品、プラスチック製品、ゴム製品など、多岐にわたる製造業の業種があります。自動車やバイクの部品、日本を代表する電波塔や橋を支えるネジ、街路樹を守る保護材などにも東大阪の製品が使われています。他にも、ICカードのような新しい技術や、航空機の部品といった人々の安全に関わる製品にも、東大阪の力が生かされています。高い技術力があり、徹底した品質管理が行われているからこそ、まちのあらゆる場面で使用されているのです。そんな東大阪の技術は、皆さんと社会をつないでいます。

TOPICS

世界で活躍する メイドイン東大阪の製品たち

どんな衝撃や振動にも緩まないネジや、洗浄力を落とさずに水の使用量を9割削減できる節水洗浄ノズルなど、インフラや環境問題の解決に貢献する東大阪生まれの製品を紹介しています。



見えてみて!



モノがたり

4

ステキひろがる つながりのモノづくり

さまざまな業種の企業が連携することで新たな展開につながることも。
東大阪市のモノづくり企業のあり方は、モノづくりの可能性を広げています。

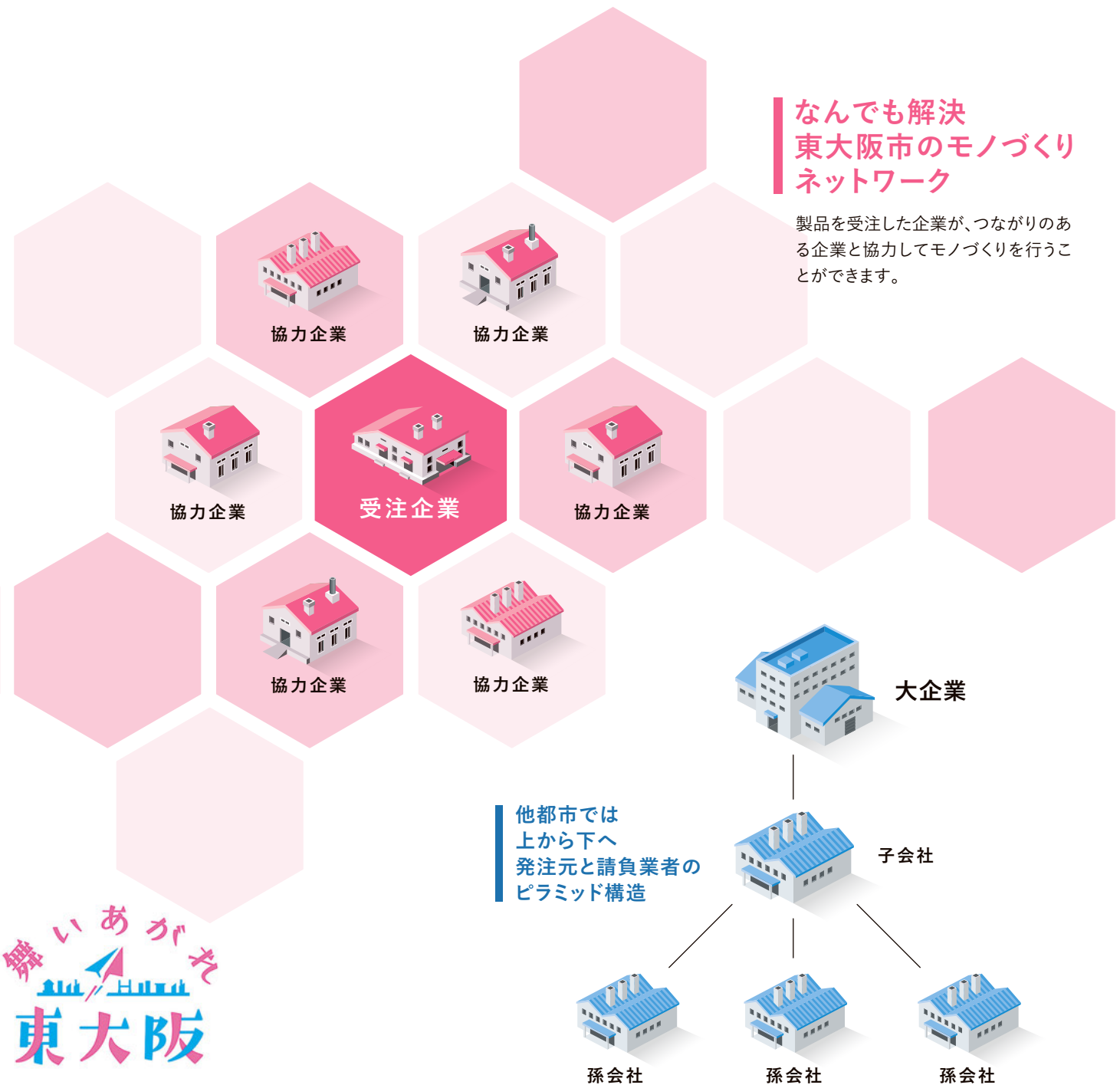


専門性の高い企業が連携すれば なんでもできる力になる

東大阪市のモノづくり企業には、親会社との系列を持たない企業が多いという特徴があります。他都市で見られる少数の大企業と系列会社で構成されるピラミッド型ではなく、地域内の分業が発達し、大企業と中小下請けといった縦系列の関係のみならず、中企業と中企業、中企業と小企業、小企業と小企業といったように縦横のネットワークで構成されています。モノづくり企業が密集している東大阪では、経営者同士が日常的に顔を合わせて人間関係を築いてきました。このような経営者同士のつながりが、自社だけでは困難な仕事でも他企業と協力して解決することができる、東大阪ならではのネットワークをつくりあげたのです。東大阪市のモノづくり企業は、互いに支え合う仲間であり、高め合うライバルでもあります。地域内でのそのような関係性が、チャレンジ精神にあふれるまちをつくりあげ、国際競争力を支える礎となっています。

なんでも解決 東大阪市のモノづくり ネットワーク

製品を受注した企業が、つながりのある企業と協力してモノづくりを行うことができます。



TOPICS

「舞いあがれ!」の舞台・東大阪

東大阪は令和4年度に放送された連続テレビ小説「舞いあがれ!」の舞台のひとつ。ネジ工場の営業として奮闘しながらさまざまな人との絆を育み、町工場同士をつなげる会社を起業するヒロインの姿は、まさにモノづくりのまち東大阪の特徴を象徴しています。



モノがたり

5

ステキな未来を つくるモノづくり

未来社会に向けて、
サステナブルなモノづくりに
取り組む企業の方々に
お話を伺いました。



甲子化学工業株式会社
南原 徹也さん

interview



資源循環を伝える ヘルメット

ホタテの廃棄貝殻と廃プラスチック等を掛け合わせた新素材でつくられたヘルメット

廃棄物で新しい素材を生み出すことが
環境問題の解決につながるんです

病院やオフィスで利用される製品のパーツなどのプラスチック製品を製造しています。発注元から提供される図面を元に製造することが多いのですが、近年はオリジナル製品の開発にも注力しています。エンジニア出身で、もともと「自分のアイデアをカタチにしたい」という思いがあったのですが、コロナ禍に開発した製品が教育現場などに採用されたことで、「社会に貢献できる製品開発」を意識するようになりました。

そんななかで、ホタテを加工する際に発生する大量の廃棄貝殻が北海道で社会課題となっていることを知りました。この状況を解決できないかと開発したのが、廃棄貝殻と廃プラスチック等を組み合わせたエコプラスチック素材を使用した、環境配慮型のヘルメットです。

貝殻を材料として活用できると思いついたのは、プラスチックを知り尽くしたベテラン社員のおかげです。社内で積み重ねたノウハウと若手の発想の掛け合わせから生まれたアイデアです。エコプラスチックの製造技術を活かすことで、廃棄物の活用をポジティブな印象に変えていきたいですね。

東大阪ならではのチャレンジ精神で ペットボトルごみ問題に挑みます

自動車や医療関連機器、産業用ロボットなど精密金属部品の切削加工をする会社です。近年は新規事業として小型部品洗浄機の開発に力を入れています。もともとは自社の製造ラインの生産性を向上させるために開発したのですが、展示会やYouTubeで発信していきなかで、さまざまな「これ、洗えますか?」という相談が日々寄せられるようになりました。お客様のニーズに合わせて、ノズルの本数や位置、角度などをカスタマイズしながら日々試行錯誤しています。

2021年から、魔法瓶などを製造販売する企業と共同でマイボトルを洗える洗浄

機を開発中です。カフェやオフィスなどの外出先でも手軽に洗えるようになることで、マイボトルを持ち歩くハードルが下がり、ペットボトルごみが減ればいいと思います。

短時間で簡単に洗えて、かつ場所を取らないなどの条件を満たすのは難しいのですが、社内には「何とかやってやろう」という熱さがあるので実現に結びついていきます。周りを見渡しても東大阪にはそういったチャレンジ精神にあふれる企業が多いと感じています。



出先で簡単にマイボトルを 洗える洗浄機

マイボトルの使用を増やすことで、ペットボトルを減らし、環境問題への貢献につながる。



株式会社中農製作所
古野 重和さん

interview





くらしとしごとが ステキな関わりをもつ モノづくりのまち

誰もが快適に暮らし、企業も元気なまち。
市民とモノづくり企業がともに理解し、共生する
まちづくりを進めています。



市の支援施策はこちら

モノづくり企業とともに 暮らしやすいまちへ

東大阪市は多種多様なモノづくり企業が集積する、活力あるまちです。その技術力は、我々の暮らしや製造業を支えています。一方でモノづくり企業は、熟練の技術を引き継ぎ、市民の雇用やまちのにぎわいを創出する、地域の重要な存在です。地域経済を元気にし、豊かで暮らしやすいまちをつくるためには、市民の良好な住環境とモノづくり企業の操業環境を保全し、創出することが重要です。住工共生のまちを実現し、ともに歩んでいきましょう。

TOPICS

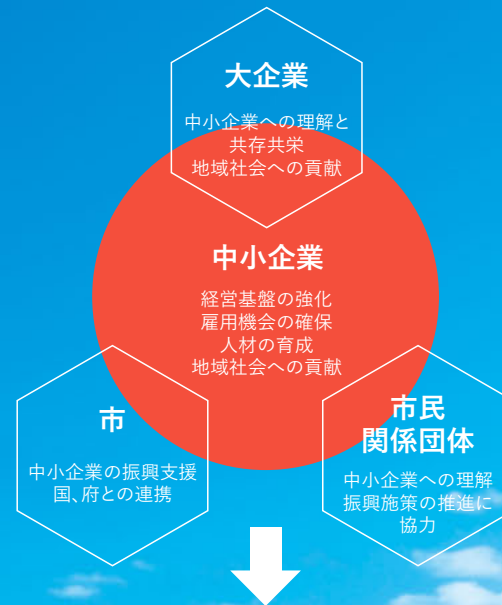
モノづくり企業から地域へ！ 魅力を伝える活動

モノづくり企業が主体となり、オープンファクトリー「こーばへ行こう!」を開催。普段は関係者しか見られない製造現場を開放し、楽しみながらモノづくりに触れてもらいます。このような取り組みは、地域住民とモノづくり企業の顔が見える関係性を構築し、モノづくり企業への関心や理解を得られることが期待されます。



中小企業は地域経済の主役

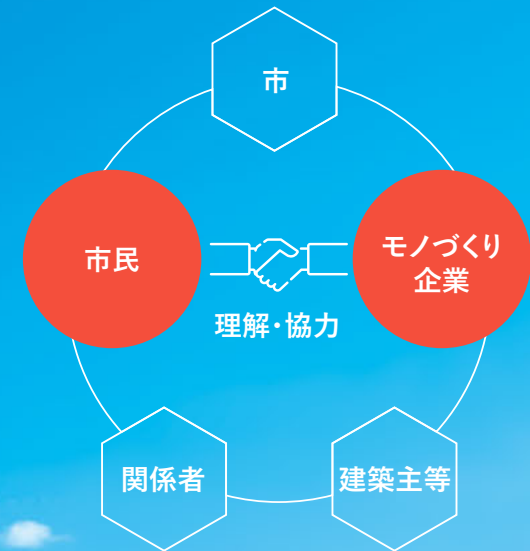
中小企業の果たす役割の重要性を理解し、中小企業の振興に協働して取り組むことが必要です。市では「東大阪市中小企業振興条例」を定め、中小企業の振興に務めています。



中小企業が元気なら地域も元気!

住工共生のまちづくり

市民の良好な住環境とモノづくり企業の操業環境を保全・創出する「住工共生のまちづくり」を推進し、かけがえのない産業集積をまちの誇りとして、未来へつなげていきます。



各者が連携を図りながら協働して推進

MONOZKURI CITY

HIGASHIOSAKA

WHERE THE ANSWER IS

東大阪フォント HIGASHIOSAKA

企業同士のつながりや、東大阪で生まれる部品がつながることで様々な製品となり、世界をつなげていることをイメージした、オリジナルのフォントです。

タグライン「WHERE THE ANSWER IS」

「答えのあるまち」を意味し、「どんなに難しい課題であっても東大阪市のモノづくり企業に答えがある」という、東大阪のモノづくり企業の自信や誇りを込めたメッセージです。

発行：東大阪市 都市魅力産業スポーツ部 モノづくり支援室
〒577-8521 東大阪市荒本北1-1-1

TEL:06-4309-3177 FAX:06-4309-3846

Email:monodukuri@city.higashiosaka.lg.jp 2024年3月